

子ども記者がナゴヤドームを取材!!

ナゴヤドームには 新しい驚きがいっぱい

記者に挑戦するのは作文で選ばれた5人の小学生。まず中日新聞社会部の安福記者が新聞の役割と取材のコツを説明。「情報を待っている人を代表して聞いている」と思いながら、読んでいる人にイメージが湧くよう、見て聞いたことを伝えるようにしよう」という話にみんな真剣な表情で聞き入っています。取材の方法を教えてもらった後は、ナゴヤドームの企画・広報部の西川さんの案内で取材へ出発。普段見ることでできない記者席やメディアサロンに興味津々。

新しいナゴヤドームを学ぼう

ナゴヤドームの裏側を取材する「新聞で学ぼう親子記者体験」が3月5日に開催されました。参加した親子は普段立ち入ることができないドーム内の様々な施設や、そこで働く人の役割を勉強。新しい設備なども取材し、驚いたことや感じたことなどをわかりやすく記事にまとめました。



記者席で取材をする中西真尋記者

バックネット裏最上段、白く囲われた記者席から毎試合ドラゴンズの活躍が伝えられていきます。百席程あり、グラウンド全体が見渡せる、細長いカウントラックになっていきます。試合中、記者はパソコンとグラウンドを交互に見て記事を書き、試合終了が近づくと選手の取材へと駆け出します。きつと今日も勝利のニュースが届くでしょう。中西真尋

このように、新聞やテレビで試合結果を知ることができる裏側には、たくさんの伝える人がいることを知りました。続いて観戦を盛り上げる観客席も取材。



106ビジョンの大きさに驚く小酒井楓麻記者

2月かからライブビジョンが新しくなりました。前はセンター側の中央、今一つの画面でしたが、両サイドに新しく画面が増え、計三つになりました。横の長さは合計106m、縦の長さは約10mで、名前は106ビジョン。約1億円。この費用は、力のある面が見られ、追いつくプレイングも。小酒井楓麻



フィールドシートの取材をする佐野彰一記者

ナゴヤドームの1、3塁側ベンチのすぐ横に特別な席があり、ここは打球の音や選手の声、動きが手に取るように分かります。シートは観戦できるような快適な観戦ができます。一塁側はドラゴンズが勝利するとネットが上がり、選手とハイタッチができます。佐野彰一



通りがかったドララと一緒に記念撮影

映像も流れ、一行は迫力の映像を観覧。試合開始まで期待が高まりました。また、ドーム球場で世界初という天井に新しく備えられた太陽光パネルについてもじっくり取材する子ども記者。発電した電力によるCO₂削減効果は、ナゴヤドームの敷地面積と同程度の広さの森林が吸収する量に匹敵する、という説明には驚きの声も。ナゴヤドームが行う環境への取り組みもしっかり学びました。

多くの人が携わる ナゴヤドームの裏側

次は華やかな表舞台から、試合を支える人たちが働くバックヤードへ。

一塁側一階にバックヤードと呼ばれる場所があり、そこにはビールなどの飲み物を冷やす大きな冷蔵庫があり、その冷蔵庫はビールなどの冷たい飲み物を保つておくための冷媒で回ります。売店の冷蔵庫なども売りの切れることもあって、売り切れることもありますが、冷蔵庫の中は常に五度なので、とても寒くなっています。宮川史



バックヤードで担当の方の話を聞く宮川史記者

食べ物や飲み物、売っているお店の管理をする飲食部、建物全体を管理する施設部、グッズを扱う物販部など、一般の企業にはない珍しい部署の話を聞くことができました。最後は1塁ベンチの説明を聞いて取材は終了。

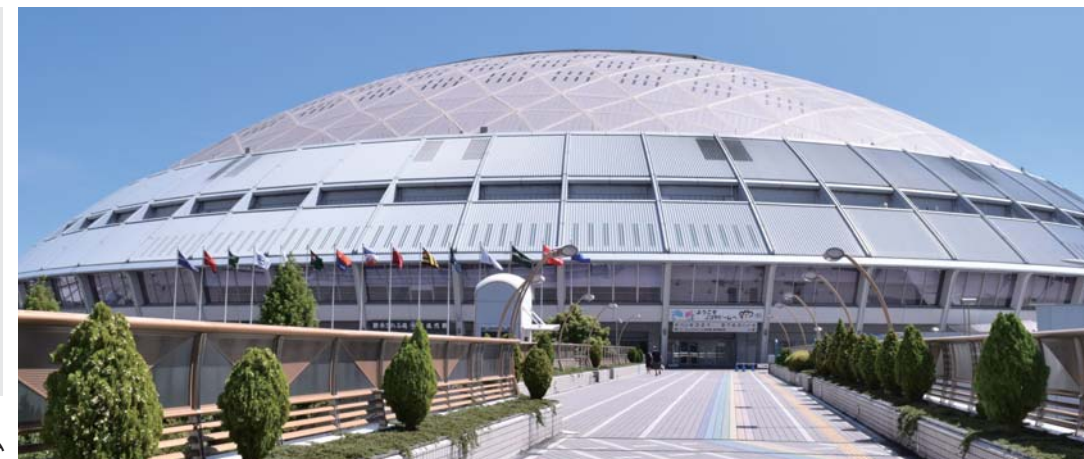


記事をまとめる子ども記者



一塁ベンチの説明を聞く立松三侑記者(左)

一塁ベンチには、昨年から選手の手入れが取り入れられ、二列あり、ベンチは試合中に選手の手や監督、コーチ、通訳、広報などが入れ、携帯電話、道具入れがある。立松三侑



©ナゴヤドーム